

## とりうみ敏行活動報告《4月》

市議選予定候補：とりうみ敏行



浦和東口駅頭宣伝

大部暖かくなり、週3回の駅頭宣伝もようやく慣れてきました。各支部のみなさんの努力もあって、多い日は7人～8人もの方がビラ配布を手伝ってくれています。お陰様でどの駅頭でも元気に宣伝が行われています。

4月に入り各団体の皆さんにも、「浦和区の予定候補はとりうみ敏行」ということが知られるようになり、建設後援会のお花見にも招かれて挨拶の機会をいただいたり、浦和北分会総会でも市議選への決意と協力の訴えをさせて頂きました。

何処でも「今度こそ頑張れ！」との激励



建設後援会のお花見

を頂きました。

また、4月の活動の中では、2種類のミニビラを発行しました。

最初は、老人憩いの家「高戸荘」が存続するニュース。第2弾は、県立南児童相談所跡地に「設計予算」が計上され、公園建設がスタートするというニュースです。

いずれも、地域要求実現を伝えるもので、地域のみなさんから歓迎されました。

児相跡地問題では、南区の守谷千津子市議の力も借りて現地視察と情報収集で素



県立南児童相談所跡地の現地視察

早い対応ができました。

さらに、元町地域を中心に3年ぶりの「市政報告会」が取り組まれ、私も報告者として招かれました。市政報告は南区選出の守谷千津子議員にお願いし、私からは、この間の住民運動の成果をはじめ、共産党



さいたま市政報告会

議員がいなくなつて3年間、浦和区での問題点などを報告しました。

参加者からは、介護保険問題、沖縄の基地問題など、多岐に渡る質問が出され、安倍内閣の悪政と歩調を合わせる清水市政の問題点も浮き彫りになりました。

市民要求を実現するうえでも、来年市議選ではすべての行政区で議席を確保することの重要性も訴えました。

参加者全員から発言もあり、熱のこもった市政報告会になりました。

尚、4月度訪問目標300軒ならず。246軒に留まりました。これまでの到達は、1月が300軒、2月156軒、3月150軒、4月246軒でした。これからも毎月300軒訪問を目指して頑張ります。



活発になってきた宣伝カー活動

## 二つのことば

領家：野々垣 務

今回は、最近励まされた二つのことばを紹介します。

私の友人の和歌山大学の学長が今年の卒業式に卒業生に式辞として送ったことばが赤旗の一面に載っていました。

そのメッセージの一つが西ドイツの国会で1985年ドイツ敗戦40周年にあたっての次の発言を紹介しています。

「後になって過去を変えたり、起こらなかったことにするわけにはまいりません。過去に目を閉ざす者は結局のところ現在に盲目になります。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすいのです。」※1

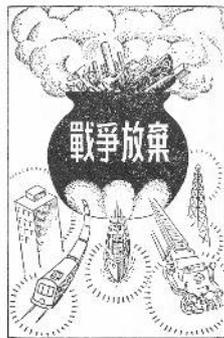
これはよく知られていることばなので皆さんもご存じでしょう。安倍晋三君に送りたい。

もう一つは、ナチスに協力してしまったアルティン・ニーメラー牧師のことばです。

「ナチ党が共産主義者を攻撃したとき、私は多少不安だったが、共産主義者でなかったから何もしなかった。ついでナチ党は社会民主主義者を攻撃した。私は前よりも不安だったが何もしなかった。ついで学校が、新聞が、ユダヤ人等が攻撃された。私はずっと不安だったがまだ何もしなかった。ナチ党はついに教会を攻撃した。私は牧師だから行動した・・・しかし、それは遅すぎた。」※2

このニーメラーのことばは、私がまだ若い頃、たしか、赤旗の「潮流」に載っていたのを読んで切り取り、大事に肌身離さず財布に入れておいたのですが、いつの間にかボロボロになって失くしていました。私の怠け心を叱咤する指針にしていました。草の根から安倍ファシズムが日本を覆

うっている最近の状況に危機感を感じていた先生、この友人の勇氣ある発言に接して勇氣づけられ、早速エールを送ったのでした。



しかし、どのくらいの卒業生にこのメッセージが心に届いたのだろうか、戦争を知らない現代の若者たちにどんなことばがリア

リティをもって響くのだろうかと自分の生き方を考えさせられもしたのでした。

「それは遅すぎた」とならないよう若者たちも語り合っって市民的連帯を地域の中に広げていきたいと思っている昨今です。※

1 「ワイゼッカーの演説集」岩波ブックレット

※2 「彼らは自由だと思っていた一元ナチ黨員十人の思想と行動」未来社

靖国史観の容認、憲法を変え、戦争できる国へと強引に国民を誘導したい考えでしょう。

軍事博物館である遊就館の中は、子供を連れた若い人たちでいっぱいでした。侵略戦争の正当性と東京裁判の不当性を誇示する内容の展示を見て、どう考えるのでしょうか。

教育基本法が変えられ、教育委員会や教科書も時の権力の言いなりでは心配です。諸外国に学び、歴史の真実をしっかりと学べる社会を作らなくてはならないと強く感じました。

## 桜一。ちょっとしたい話

領家：仙境 勝蔵

## 『靖国神社・遊就館ツアー』 に参加して

領家：菊池 陽子



社号標

4月5日、富士国際旅行社が募集した企画に参加してきました。

当日は晴天のもと桜が満開で、九段坂下は人、人、人で満員。集合地の大鳥居、社号標は、桜祭りのテキヤさんの屋台で隠れてしまうほど。平和委員会の方の案内で、詳しく説明が続きました。

靖国神社は、その施設自体が「忠君愛国」思想を国民に植え付けるための国民教育の「場」と言う性格を色濃く持つところです。ちなみに遊就館の名前の「遊就」とは、高潔な人物に交わり、学ぶという意味だそうです。

憲法20条3項には「国及びその機関は、宗教教育その他あらゆる宗教的活動をしてはならない」としてあるにもかかわらず、近隣諸国の非難にもめげず参拝したがる閣僚たちは、アジア人への加害を無視し、

### (1)桜並木の老夫婦

4月上旬。見沼代用水を東浦和まで散策しました。満開の桜。畑には菜の花。庭にはボケやモクレンが“私の季節よ”と咲いていました。木々は若芽をつけ新緑の季節を迎えようとしておりました。

そんな桜のトンネルの下を散策している老夫婦に遇いました。人生という年輪を重ねて今は一回り小さくなった背中を、お互い寄り添いながら桜並木の中を静かに歩く姿は何とも微笑ましく感じました。なんとなく「こんにちわー」と声を掛けてしまいました。

### (2)ケイタイ電話が戻ってきた！

4月上旬、知人のIさんと見沼代用水を大宮公園まで散策しました。大宮方面は桜の木が時々ある程度です。去年あたりから江戸彼岸桜の植栽が行われて、4～5輪花をつけている木がありました。

大宮公園の桜は満開に咲き誇り、大勢の人達が楽しんでいました。

ところがIさん。桜に見とれてケイタイを紛失してしまったのです。

「仙境さんと一緒だと歩かされてばかりで・・・」とこぼすのです。(だからケイタイも失くしたんかな?)

私はもう戻らないと思ってました。しかし、そのケイタイ、警察署より連絡があり I さんの元に戻ったのです。私は“日本人もまだ捨てたものではない”と感動したのですが――。でも I さん「電池が切れてるか」とそんなにうれしそうでもないのです。

その夜のビールは格別に旨かった。



### (3)新1年生――

4月――。別れの季節でもあり出会いの季節でもあります。芝生に寝転んでポヤッとしてました。木崎小の入学式だったのでしょ

うか。小さな背中に大きなランドセルを背負った新1年生が、親に手を引かれて通り過ぎました。桜の花びらがその背を追いかけるように舞っていました。

毎年見る風景ですが、いつもホンワカいたします。頑張れ新1年生!

## 「原発事故、次も日本？」(2) ―日本史上、最大にして最悪の公害の現地を歩く― 元町：関内旬一郎

10時20分頃、檜葉町役場に着く(線量表示場板は $0.158\mu\text{Sv/h}$ )。10時30分頃、居住制限区域の富岡町に入る(車中の線量計は $0.5\sim 0.8\mu\text{Sv/h}$ )。街並みは被災当時から時間が止まったままである(美容室の掲示時計も)。大津波で壊滅したJR富岡駅(太陽光発電の線量表示板は、 $0.388\mu\text{Sv/h}$ )、駅舎や周辺の商店街も破壊されたまま。原発マネーで建てられた総合スポーツセンターなど箱モノだけが利用者もなく残されている。11時、福島第2原発が見渡せる観

陽亭跡地から座礁した砂利運搬はしけを眼下に見て、遠くに第2原発の建屋や煙突を望む。11時20分頃、桜の名所である「夜の森地区」を車窓から見学。道路を挟み、片側は「帰宅困難区域」で立ち入り禁止の柵が設けられている(線量計は $1.0\sim 2.3\mu\text{Sv/h}$ に上がり始めた)。

お昼前に、最後の訪問地である檜葉町の浄土宗宝鏡寺で、いわき市で避難生活の住職の早川篤雄さんのお話を伺う。同寺は1395年(室町時代)に開かれ、ご住職は30代目という。1971年3月の福島第1原発営業開始および広野町火力発電所誘致発表時から住民組織で勉強会を始め、全国初の「公聴会」開催要求の署名活動を行ってきた。現在の各地公聴会同様「やらせ公聴会」であったが、少数ながら住民の立場で意思表示をしてきたとのこと。現在も原告代表の一人として闘っている。早川さんは、自然豊かな檜葉町で30年間育ててきた山桜やもみじの美しい写真や原発震災前までは、お孫さんと一緒に田植えをした緑豊かな田んぼの写真を見せてくれた。震災後は地元の除染を進めるため、所有の田んぼを汚染土の仮置き場として提供している。今では、再開通した常磐自動車道の足下に、セイタカアワダチソウに変貌した田んぼと黒いフレコンバックが山積みになった仮置き場が並んでいるのが現実の姿であった。

早川さんは「原発事故、次は日本?」という意見書を東電や政府に提出していたが、全く無視され、これからは「原発大事故、次も日本?」と訴えたいとのご意見には、「その通り!」と肯き、現地での長い闘いに励まされ、全国の原発ゼロ・再稼働反対の運動に連帯する決意を新たにす貴重な現地視察となりました。フクシマで頑張っている皆さん、ありがとうございました。